

# 石坂産業の里山環境教育フィールドで、 「環境省キャリア形成支援プログラム」を実施

1月13,14日の2日間にわたり、高校生を対象とした「環境省キャリア形成支援プログラム」が石坂産業株式会社（埼玉県）で行われました。これは、環境省と「体験の機会の場」研究機構が締結した『「体験の機会の場」の充実・拡大に関する協定』に基づいて行われた協働事業です。

環境活動に取り組む全国の高校生と教員が2日間参加し、里山環境教育フィールドでの五感を使った体験を通して、社会で働く意味を考え、グループでのワークショップとプレゼンに取り組みました。

## 概要

### ■開催日程

2018年1月13日～14日

### ■開催場所

石坂産業株式会社 三富今昔村

### ■参加者、参加人数

環境活動に取り組む全国の高校生22名と教員8名

### ■目的

- ・体験を通じて知識を「生活知」「経験知」に変える
- ・自分の活動を社会・経済・文化のつながりの中で客観的に見つめる
- ・高校生が自分の言葉で発表の「台本」を書き、相手に「伝わる」よう「伝える」
- ・教員の「仕事」に対する価値観を変容させる

### ■スケジュール

#### <1日目>

- ・オリエンテーション  
「産業廃棄物」「石坂産業」に対するイメージマップづくり
- ・施設見学  
「意外な発見」をテーマに写真を3枚撮る
- ・社長講話  
なぜ産廃業者が里山保全や環境教育に注力するのか

#### <2日目>

- ・自己紹介
- ・ワークショップ  
チームに分かれ、1日目に撮影した写真から個人で1枚選び発表→その後グループで1枚を選ぶ
- ・プレゼン  
全体で1枚を選ぶ
- ・クロージング  
再度イメージマップづくり(どう変化したか)

## 環境省との協定に基づいた協働事業

石坂産業は、埼玉県で唯一「体験の機会の場」の認定を受けています。

石坂産業の運営する三富今昔村では、建設系産業廃棄物の再資源化に取り組む向上の見学で3Rやエコマインドを学び、保安全管理している里山「くぬぎの森」で、地域に根付く伝統と里山の暮らしを五感で体験することができます。

また、農薬や化学肥料を使わず、落ち葉堆肥を使用した「固有種」の露地栽培を行っている「石坂ファーム」での農業体験や、そこで採れた野菜を食べることで旬や地産地消を学ぶ「おいしい体験」など、人と自然と技術の共生を感じられるプログラムを提供しています。



▲五感を使った体験をする参加者たち

今回のキャリア形成支援プログラムでは、そうした地域との共生を掲げる石坂産業の取り組みを見学し、代表・石坂典子の講話を聞くことで、「自分が社会や地域とどう関わるか」という課題に向き合いました。

代表・石坂典子の講話では、高校生に対して「将来どんな職業に就いても、『社会の役に立つ』『未来の環境を守る』ということは必ず考えてほしい」「新しいモノ・コトを生み出すだけでなく、価値がないとされているモノの新しい価値を見つけ出すことも立派なイノベーション」などのお話をさせていただきました。

廃棄物処理という、現代社会からは見えにくい“根っこ”の仕事があってこそ人々が健康で幸せに暮らせるのだというメッセージを、しっかりと受け取っていただくことができました。



▲石坂典子の講話に真剣に耳を傾けていた



▲2日目のプレゼンの様子

最後のプログラムとして、2日間を通してのイメージマップを再度作成しました。体験を通して自分自身の価値観や考え方がどのように変化したのかを見つめることで、将来について考える機会となりました。

## 全国から選ばれた高校生が参加

今回参加した高校生は、主に農業・工業等の技術系を学ぶ生徒たちです。当プログラムは、体験を通じた環境教育プログラムの普及と、持続可能な社会に向けた担い手の育成を目的とするものです。

参加者それぞれが取り組んでいる活動の充実を図るために、発見力・分析力・表現力を身につけることを狙いとして実施しました。

プログラムの冒頭に、オリエンテーションとして「産業廃棄物処理」「石坂産業」に対するイメージマップを作成しました。その後、スタッフによる施設見学で、挨拶と3S(整理・整頓・清掃)を徹底している再資源化工場の見学を見学しました。「くぬぎの森」のガイドでは、里山の保全管理について学び、歴史や伝統を守り伝えていく取り組みを紹介しました。

施設見学の中で「驚いた」「興味を持った」という場所について写真を撮り、何を感じ、何を得たかを写真とともにまとめました。

2日目のグループワークでは、各々が選んだ写真について「なぜこの写真を選んだのか」を発表し、グループの中でタイトルをつけて、若い視点で三富今昔村の魅力をプレゼンしました。どのグループでも、話し合った内容を、どのように伝えれば相手から共感を得られるのかを考え、短い時間の中で練習を重ねてプレゼンをすることができました。

## <参加者の感想>

「今回参加してみて、この社会にはまだまだ知らないことがあるのだと感じました。実際に自分の目で見ることで、根っこの仕事に感謝しなければと思いました」(愛媛県:高校3年生)

「自分の背中をぐっと押されるような想いがしました。根っここの仕事の“輝き”をたくさん教えていただけたと思っています」(東京都:高校2年生)

「将来は看護の仕事に就こうと思っていましたが、今回の経験を通し、環境や自然に関わる仕事もすごく楽しそうだと思います」(北海道:高校1年生)

「なぜゴミはお金を払って捨てないといけないのだろうと疑問に思っていました。でも、見学や社長さんのお話を聞く中で、産業廃棄物処理業や社員さんがいることの大切さを感じることができました」(鹿児島県:高校3年生)

「考える視点の違い、行動力など、聞いたことを少しでも吸収しようと、とにかくメモを取りました。それを生かし、2日目は、1日目よりも積極的に自分らしさを出せました。ワークショップを通して、コミュニケーション力も向上できたと思います」(北海道:高校2年生)

「活動は地道で、1人1人の力はとても小さいものです。ですが、これからもプライドを持って私たちの活動を行っていきたいと思います」(愛媛県:教員)

## <1日目>

### ・オリエンテーション

「産業廃棄物」「石坂産業」に対するイメージマップづくり



### ・施設見学

リサイクル率98%を誇る再資源化工場  
保全管理している里山などを実際に見学。



### ・社長講話

なぜ産廃業者が里山保全や環境教育に注力するのか



## <2日目>

### ・自己紹介



### ・ワークショップ

チームに分かれ、1日目に撮影した写真から個人で  
1枚選び発表→その後グループで1枚を選ぶ



### ・プレゼン

三富今昔村の魅力伝える1枚を全体で選ぶ



### ・クロージング

再度イメージマップづくり(どう変化したか)

